

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム ピアポート千寿苑		
所在地	千葉県千葉市中央区問屋町6-4		
自己評価作成日	平成28年1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットでは季節ごとの飾りつけをしたり、様々な行事等を企画・実施して参加していただき、楽しみながら季節を感じられるよう心掛けています。行事や外出では利用者様にもお話を伺いながら、一緒に考え計画しています。館内はバリアフリーで、併設の他事業所の設備も使用することができる為、ご希望があれば最期まで施設にてお過ごしいただくことができます。施設内にて歌や踊りの鑑賞や、クラブ活動等があり、これまでの趣味やお好きなものがあればご参加いただき、楽しんでいただけます。また近隣にはコンビニやスーパー等もあり、ご希望の際は徒歩にて買い物にでかけることができます。近所の保育園との交流もあり、ほぼ毎週、一緒に散歩をしたり、相互に行き来してイベントや行事を実施したり、と利用者様の明るい表情や、積極的に関わろうとされる姿が見受けられます。

できるだけご本人のこれまでの生活やペースに合わせたケアができるよう、心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉市中心部の商業地区の高齢者複合施設内にあり、4月で開設10年目を迎えるグループホームである。同施設は特別養護老人ホームなど複数の系列施設があり、運営や設備、地域ボランティア受入などで多くの協力が得られている。長期間の利用者も多く、重度化や入れ替わりが増えているが、管理者はじめ多くの経験豊富な職員が、利用者一人ひとりの思いを受け止め「その人らしさ」の支援に取り組んでいる。「湊」「渚」のユニットは独自運営だが合同行事などでは協力しあってサービスの向上に努力している。家族アンケートでも家族の満足度が高く、家族にとっても大変行きやすい場所となっている。周辺地域もようやく、若い住民が増えてきた。地域交流室の開放、夏祭りへの参加、近くの保育園との毎週の交流と、地域福祉を支える拠点となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境でゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」を理念に、各ユニット玄関付近に掲示し、職員間の共有を図っている。理念の内容を理解する為の研修を行い、実践に活かせるようにしている。	理念は各ユニット毎に掲示し、職員会議や入職の際に話し合い、理解を深めている。運営方針や法律についての研修を行い、理念を理解した上でどの様に介護に取り組むかを職員と会議等で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方に、地域交流室を会議の場として開放している。近隣のスーパーやコンビニへの買い物や夏祭りへ外出したり、イベント時には近所のスーパーに相談させていただいている。月に数回、地域の保育園児と一緒に散歩に行ったりイベントを実施する等し、交流を図っている。	商業地区の一角だが、最近はマンションも増え若い住民も増加している。町内会に加入し、地域住民との交流に取り組んでいる。施設内の地域交流室の開放、地元祭りへの参加、商店街からの物品の優先購入など配慮している。特に近くの保育園との定期的なふれあいは園児及び利用者の双方にとっての安らぎと交歓の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所への外出、保育園児との交流を行うことで積極的に地域へ外出し、地域の方とのふれあいを通して認知症の状態の方への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や法改正の説明等の際に合わせて行った。なかなかご家族様の都合がつかず、定期開催が難しい状況であるも、ご家族様、地域の方にできる限りご参加いただけるよう工夫し、実施したいと思っている。	運営推進会議は家族、民生委員の参加で年4回定期開催し、現状と課題について相談している。家族の希望日が日曜日であり、地域包括安心センターや地域代表が参加しにくい事情もあり家族主体となっている。	開催日については、家族と地域代表や地域包括安心センターとの調整がつかず日曜開催となっている。地域、行政の意見を伺うことも大切であり、時には平日開催するなどの工夫を検討願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営等で不明な点は、その都度市の担当者にご相談させていただいている。また市の方からボランティアの受け入れや依頼のあった際は、積極的に受け入れるようにしている。代表者がグループホーム連絡会の会長をしている為、その点でも連携を取れるようにしている。	市の高齢者施設課が窓口である。市役所に近く訪問しやすく、諸手続き、相談事などがあれば気軽にに応じて頂いている。法人代表者がグループホーム連絡会会長であり、管理者は2か月に1回の会議、研修等に積極的に参加し、市及び他のホームとの連携、情報交換に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やミーティングで事例検討等を行い身体拘束を行わないケアについて職員で話し合っている。施設1階の正面玄関は解放され出入りが自由となっている為、外へ出てしまう可能性のある入居者様について各事業所に資料を配布し、連絡をいただけるようにしている。	外部研修受講や安心ケアセンター所長が講師の施設内研修を実施している。「あれっと思った事、何か違うと思うこと」などをKJ法の手法を使った研修会もある。利用者は職員全員で見守り、1階玄関は開放し、各階事業所から連絡頂いて、その都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について事業所内研修や事例検討を行い、学ぶ機会を設けられるようにしている。不適切なケアについても話し合いの場を持ち、適切なケアを職員それぞれが考えることでお互いに指摘しあえるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在数名の方が成年後見制度を利用されている。必要となる可能性のある入居者様については制度についてお知らせし、検討する機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は複数回お会いし、ご説明やご相談のできる機会を設けている。改定時も説明会を実施しご説明した。今年度は訪問歯科や看護師の配置について変化があり、お電話や詳細を記載した文書にてご説明したが、ご家族様によっては不十分と思われた方もいた為、今後注意し、より丁寧なご説明を心掛けたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でのアンケート結果を職員に伝え、今後のケアの方法について検討した。またご家族様の来苑時等には近況のご報告と共にお話を伺い、意見や要望を伝えやすい関係や雰囲気作りを心掛けている。	利用者の日常介護の時にさりげなく聞き、家族は運営推進会議出席や来苑のおり、状況を説明し、意見も伺ってる。それぞれの意見は毎日の申し送りで共有している。家族へはお知らせ「九人十色」で行事、職員の入退職、利用者の異動までお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望のあった際には、管理者より直接理事長や各担当者にお話をし、しっかり伝わるようにしている。日頃から職員と積極的に話す機会を作り、意見や提案、改善策等のある場合に言いやすい関係作りにも努めている。	目標管理制度があり、年に2回の職員面接で要望を確認している。ユニット・運営会議などの多くの機会に職員意見を把握し運営に反映している。併せて管理者は職員に気軽に話しかけ、相談にも応じている。理事長室が同フロアで、直接理事長と話す事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度から目標設定型の給与体系に変わり、職員が目標を持って働ける仕組み作りを進めている。職員個々の仕事に対する姿勢や努力、実績、管理者から見た勤務状況等、評価の面談時管理者から理事長へ報告し、把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、必要や希望に応じ施設内外の研修に参加してもらっている。研修への参加費用を施設が負担したり、勤務の中で参加できるようにして職員のスキルアップややりがい作りに努めている。また業務の中でも知識や技術の指導ができるよう職員の関係作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問はできていないが、グループホーム連絡会や各種研修を通じて他施設の方と交流し、情報・意見交換を行っている。また併設事業所の職員・入居者様と一緒に行事を行ったり、ケアについて迷った時は他事業所の職員に相談する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業所から情報を収集し、入居前の生活の様子を知ることによって安心して生活が始められるよう配慮している。入居後すぐは職員から積極的に関わりを持ち、ご本人やご家族様からお話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前の面談時等、職員とご家族様のみでお話する機会を設け、ご家族様の心配事や要望等を話しやすい環境を作り、できるだけ分かりやすい説明を行うことでご家族様の不安解消に努めている。入居後もご意見やご要望等あれば遠慮なく言っていたり、できるだけ声をかけ、話しやすい環境を整えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご相談の際、現在のお困り事や不安をお伺いし、必要に応じ他のサービス申し込みも含めお話をさせていただいている。入居後の生活支援についてもご本人やご家族様から他のサービス利用のご希望がある場合は、できるだけご希望に沿えるよう他事業所と調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動と一緒にいたり、行事や企画の際に利用者様に意見を聞き実施する等、できる範囲で相談したり協力をいただきながら、暮らしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や行事、通院の際に付き添いをお願いしたり、来苑時に散歩に同行してもらう、食事の介助をしていただく、またご自宅や外食等ご家族様と一緒に過ごせる時間を設けていただく等、ご家族様との関係を維持しながら、一緒に生活を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の方に面会のご協力をお願いしたり、入居後間もない方には外出や必要に応じ外泊の協力をお願いする、また通っていた美容院へ行く等馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援している。	一人ひとりが大切にしてきた馴染の関係は家族の協力も得て継続出来るよう支援している。入所後、ここが馴染の場所になるよう、近隣のお店での買い物や保育園児と一緒に散歩をする等、関係作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、気の合う方と食事の席を隣にしたり、一緒に行事に参加していただく等、利用者同士がコミュニケーションをとりやすい環境作りに努めている。話すことが難しかったり耳の遠い方でも職員が間に入りコミュニケーションが図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった場合も、その後のご本人様やご家族様の生活について相談し、関係機関との調整を図ったり、入院先の病院へ面会に行かせていただいたりしている。ご逝去された場合も葬儀に参列させていただき、故人を偲ぶ機会を持てるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言語での意思表示が可能な方については良くお話を伺い、できる限りご本人の意向に沿ったケアを提供できるようにしている。難しい方については、日頃からの表情や言動、仕草や変化等でご本人の希望や意向を汲み取れるよう努めている。	日常の会話の中から本人の思いや希望を把握している。意思疎通の難しい方は、表情や仕草から思いを汲みとり、家族からの情報も職員間で共有し、支援に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前やご自宅で過ごされていた際の生活の様子について、ご本人様やご家族様、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業者からお話を伺い、情報の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でアセスメントを行い、現状の把握に努めている。普段と違う様子の見られる際は、連絡ノートやミーティング、毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りやミーティング等でご本人様の生活について話し合い、ご本人様やご家族様からお話を伺いながら介護計画に反映している。現状にあまり変化のない場合でも都度モニタリングを行い現状のケアがニーズに沿ったものであるか確認している。	初回の介護計画は家族、職員と話し合って作成し、モニタリングも都度行っている。職員は本人の思いや要望に耳を傾け、毎月のミーティングや日々の申し送りで話し合い現状に添った介護計画を作成し、家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケース記録として個別に記録している。情報の把握や共有、また介護計画作成時やモニタリングの際のツールとして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所のクラブ活動やデイサービスへの参加、訪問歯科や訪問マッサージの利用、また行きたい場所への外出支援等、できる限りご本人様やご家族様のご希望に沿えるよう。各関係者と調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園との交流やスーパー、コンビニを利用する等し、地域で生活していた頃に近付けるようにしている。また地域の踊りや歌のボランティアの鑑賞や傾聴ボランティアの方とお話等、生活が豊かで楽しいものとなるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様とご家族様の話し合いにて決めていただいている。嘱託医へ主治医を変更する場合も診療情報提供書をいただきスムーズに変更ができるようご案内している。嘱託医以外の受診の場合は、現状を適切に上申できるよう、ご家族様にお伝えしたり場合によっては付き添い、ご家族様と共に状況を把握できるようにしている。	入所前からのかかりつけ医を継続する方、嘱託医へ変更する方と本人と家族の希望を大切にしている。訪問看護師も24時間対応で週1回来所し、状態確認や相談に応じている。嘱託医以外の受診は家族行が、緊急時には職員対応で行い診療情報は共有出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	年度途中で訪問看護師に変更となったが、変更となった後もバイタル値や日中の変化等を記載しファックスで連絡し、情報の共有を行っている。医療的な相談も行い、急変時や受診前後の対応、助言をいただく等、連携が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域生活連携シートや看護サマリー等を提出し、これまでの生活の様子を適切に伝えられるようにしている。退院後の対応や時期、目安等についてもご家族様や医療ソーシャルワーカーを通じ、医師・看護師とも連携して、退院後の生活を支えられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化された場合の対応について説明し、現状の看取りに関する意向を伺っている。体調に大きな変化があった際や看取り期となった場合には、ご家族様に現状や今後予測される症状、施設にてできること、できないこと、日常生活の過ごし方等、具体的に話し合い、協力できるようにしている。	重度化や終末期に向けての本人、家族の希望は入居時に聞き取り、施設での対応も説明している。今までの看取りの経験から、対応が必要になった時には家族、主治医、関係機関と話し合いを重ね、希望に添った支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で急変時の対応について話したり、具体的な例を挙げ事例検討し、発生した場合に備えた。一日を通して事業所に職員が一人になることはない為、夜間でも対応に迷った際には他職員に相談したり、訪問看護師に報告、指示を仰ぐ等し、実際の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所の職員や宿直者と協力しながら、合同での災害訓練を年2回実施し、職員と利用者様が参加している。昨年の外部評価にて津波発生時のシュミレーションについて指摘があった為、防火管理者に相談し、津波発生時の対応フローチャートを作成、職員間で確認した。	昨年の目標達成項目に掲げ、災害訓練を年2回行い、津波発生時の手順書を作成し職員会議では図上確認も度々行っている。同じ施設内の特養の職員と夜間の職員の少ない時の災害発生についても協力体制を確認し、非常食については7日分の備蓄を行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれのご入居者様を知り、一人ひとりに合った声掛けを工夫している。排泄や入浴等介助の際も、自尊心やプライバシーを傷つけないよう、配慮した方法や声掛けを実施している。	毎月発行の施設だより「九人十色」にみられる様に一人ひとりを大切にしたいケアに取り組んでいる。プライバシーを損ねない言葉かけ、心配りを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際洋服を選んでもらったり、選択のできる方には具体的な選択肢を出し、選択しやすいようにしている。また普段から良く話や希望を聞く等、利用者様からの声を聞き生活に反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示のできる方には希望を伺いながら対応している。食事の時間等変えることが難しい点もあるものの、それぞれの生活リズムを知り、できる限り臨機応変に、ペースにあった生活が送れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れていたら交換してもらおう等清潔な洋服を着用していただけるよう支援している。選べる方には一緒に選んでいただいたり、一緒に買い物に行く、洋服やおしゃれについての話をする、髪の毛を丁寧に整える等、その人らしい身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で用意していただける為、調理レクの際の用意や日頃の配下膳、片づけ等一緒にできる方と行っている。また食事の際はメニューを説明したり、食卓でお話をする、出前をとる、外食へ出かける等、食事が楽しいものとなるよう心掛けている。	食事は施設の厨房で用意され、料理長のこだわりで品の良い瀬戸物食器で提供され、目で見て楽しみ、味わって楽しんでいる。各ユニットで誕生会、調理レク、外食を企画し、準備や片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調やご本人の状態を考慮して、食事の形態や時間を変えたり、好きな飲み物や嗜好品を提供する等、一日を通して必要な水分や食事摂取ができるよう職員同士で連携をしながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った方法で歯ブラシや歯磨きティッシュを使用し口腔ケアを実施している。入れ歯や残歯の手入れ等、難しい部分は介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また気になる事がある場合は歯科往診時に相談し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄できるよう、利用者様の排泄パターンを知り、トイレの声掛けや介助を行っている。また生活リズムや様子の変化、ちょっとしたサインに気づき失敗の前にトイレに行けるよう声をかけている。	排泄が自立されている方以外は排泄のパターンを把握し、トイレへの誘導をさりげなく行っている。トイレの背もたれにクッションを置き、隙間を埋めるようなちょっとした心使いが見られた。夜間はポータブルトイレ利用の方も日中は誘導を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類や水分を多く摂っていただき、運動や体操を行う等している。便秘がちな方には牛乳やヨーグルト等の乳製品、オリーブオイルや食物繊維の粉末等、栄養士や看護師とも相談しながら下剤のみに頼らない対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在お一人で入浴できる方がいない為、職員が二人以上いる時間帯での入浴の対応となっている。曜日は決まっているものの、体調やご本人の希望に合わせ曜日を前後したり、時間をずらしたりし対応している。また入浴中は個々に合った支援や会話、ゆっくり湯に入る等楽しめるよう工夫している。	お風呂好きな方は毎日でも入浴でき、体調や本人の希望に合わせた対応をしている。お風呂はリラックスできる場所であり職員との会話も弾み、楽しい時間を過ごしている。併設の特養の特浴も利用でき、個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や温度、照明等の快適な環境作りに努めている。また休んでいただく時間はそれぞれの生活リズムやペース、体調に合わせ、ゆっくり休んでいただけるようにしている。眠れない様子が見られる場合には、安心できるような声掛けをしたりしばらく一緒に過ごす等し、落ち着いて休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明を読み、効能や特徴等の確認に努めている。内服の変更、服用後のご本人の様子や症状の変化を観察し、必要に応じ医師に伝えるようにしている。また誤薬のないようチェック表を用い、二人以上で確認後服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には家事活動のお手伝い等をしていただき、役割を持てるようにしている。調理レクや外食・外出、散歩等気分転換ができるよう実施している。また日常生活ではお話をしたり、好きな嗜好品の提供等楽しみを持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員の都合にて実施できないこともあるが、近所への買い物や散歩等希望の聞かれた場合にはできるだけ実施できるようにしている。また行きたい場所等がある際は企画をし、ご家族様にもご協力いただきながら外出し、楽しんでいただけるようにしている。毎年電車で外出しており、今年度は巣鴨へ出かけ楽しんでいただいた。	近隣の保育園児との公園への散歩と近所のコンビニやお店に日常品の買い物に出掛けしている。今年度は都内の巣鴨に電車でお出かけ、とげぬき地蔵では賑やかな参道を楽しんできた。本人の希望に添って家族と協力して毎年の外出支援を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭の管理や使用をすることが難しい方が多いが、中にはご自身で財布を持ち管理され、外出等の際使用されている方もいる。多くの方が事務所に金銭を預けており、外出や本人の希望時出してもらい、使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおり、操作の代行や取次等の支援を行っている。その他でもご家族様へ電話をしたいと訴えのあった際には電話を掛けたり、届いたお手紙をお渡しし代読する等行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの整理整頓や清掃を行い、安全・快適に過ごせるようにしている。また温度や湿度の調整をしたり、季節毎の飾りつけや、ユニット内に行事の際の写真の掲示する等し、居心地の良い空間作りに心掛けている。	木のぬくもりと暖かみを感じさせる、バリアフリー化された共有スペースには季節の飾りつけがされ、数々の作品や沢山の笑顔の写真が飾られている。空調に配慮し、清潔な環境で過ごせるよう掃除はまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性や身体的な能力に配慮し、それぞれが共用空間で過ごしやすいような座席を考えている。またソファやリクライニングチェア、離れた場所へのテーブルの設置等、それぞれの体調や気分に合わせて過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より備え付けのものもあるが、これまで使用されていた物等はご家族様よりご持参いただき、安心して過ごせるようにしている。また家具の配置やベランダでの鉢植え、荷物の整理整頓等ご本人様やご家族様とも相談しながら実施し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室のクローゼット・洗面台は備え付けで、家具の配置は本人、家族が相談して決めている。壁面には本人の作品や写真が沢山飾られ、室内は落ち着いた色合いで纏められ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーとなっており、歩行でも車椅子でも安全に移動がしやすくなっている。それぞれの能力を見極め、その方に合わせ声掛けや見守り、介助の範囲等を工夫している。		